

つくば科学フェスティバル2006

南 極 教 室

南極観測50年の今と昔——講演会・ライブステージ・展示

日時：2006年10月7日(土)、8日(日)

開場：9:30 終了：16:00

場所：つくばカピオ

つくば市竹園1-10-1, TEL 029-851-2886

主催：南極OB会茨城支部

<http://www.jare.org/local/ibaragi-ob.htm>

南極観測に関する展示と講演会、テレビ電話を用いた南極昭和基地との生中継を行います。展示では、1万年以上前の昔の空気が詰まった南極の水や、ペンギンの剥製、南極隕石、南極観測の歴史や現状を紹介するパネルなどを前に、南極観測に従事した茨城県ゆかりの観測隊OBが説明を行います。

10月7日(土) 講演会・ライブステージ

- 10:00-10:45 **南極と北極を経験して**
池田 博(筑波大学、44次冬、地学)
南極昭和基地と北極ニューオーレンセンでの超伝導重力計観測の経験を語る他、美しいオーロラについても紹介する
- 10:45-11:30 **南極への夢・今南極は**
桜庭俊昭(元産業技術総合研究所、40次冬、43次冬、気水圏)
越冬生活中の出来事を紹介し、南極からのメッセージとはなにか、そして夢を語る
- 13:15-14:00 **南極越冬隊と宇宙飛行士**
村井 正(宇宙航空研究開発機構、26次冬、医療)
南極越冬隊と宇宙ステーションに滞在する宇宙飛行士との間に見られる人間的な側面の共通点・相違点
- 14:00-14:45 **南極を測る**
福崎順洋(国土地理院、40次冬、地学)
大陸間距離を高精度に測るVLBIやGPSの観測結果から、南極大陸の測地的な不思議を解説する
- 15:00-15:30 **ライブステージ：南極昭和基地とのテレビ生中継**

10月8日(日) 講演会

- 10:00-10:45 **南極の交通事情とドームふじ基地**
渡辺原太(土浦ジステック、47次夏、気水圏・ドーム航空隊)
ドームふじ基地(標高3810m)での生活・作業、航空機での南極往復などの体験について紹介する
- 10:45-11:30 **大気中の二酸化炭素を吸収する南極海とその生き物たち**
石井雅男(気象研究所、34次夏、海洋生物)
大気中の二酸化炭素増加とそれを抑制する南極海の役割について、生物・生態系から説明する
- 13:15-14:00 **オゾンホールが発見と現状**
中島英彰(国立環境研究所、31次冬、48次冬、宙空・気水圏)
南極のオゾンホールは1982年日本の観測隊によって発見された。この発見のいきさつ、現状について解説する
- 14:00-14:45 **電気と水の消費量から見た昭和基地の文化生活**
多賀正昭(元日立製作所、8次冬、12次冬、21次冬、機械)
昭和基地の電気と水の消費量から見た越冬生活の文化生活度を、年代別に日本と比較して考える

特別講演

- 14:45-15:30 **南極観測50年の今と昔**
渡辺興典(元国立極地研究所所長、11次冬、15次冬、29次観測隊長兼越冬隊長、35次観測隊長兼夏隊長)
南極観測は1956年、排水量5千トン足らずの「宗谷」から始まり、現在はその4倍の「しらせ」となり、物資の搬入量は140トンから1000トンへと増え、観測計画の質的・規模的發展をもたらした。現在、日本の基地は南極最高地のドームふじ基地を含む3つの内陸基地を擁し、世界でも最先端の観測網である。その変遷を通じて日本の南極観測半世紀の歴史を紹介する